

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標 指標	目標 指数	今期 指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
確かな学力	①	基礎基本の徹底	細呂木タイム等で、国語や算数の基礎的な学力の定着を図る。	細呂木タイム等で、国語や算数の学習の時間を確保している。	教師	取組指標	90	100	「αドリル」や「eライブラリ」を使って、計画的に学習を進めているので、基礎的な学力の定着が図れている。「漢字ドリル」や「計算ドリル」を使って反復練習にも取り組んでいる。	今までに引き続き、系統的に「αドリル」や「eライブラリ」等を計画・実施し、基礎・基本を徹底させていく。できないところは、家庭での自主学習で復習を促していく。	○到達目標を読んだ本の冊数から、本を読んだ時間に変えたことは、視点が変わって良い。本に触れる回数が増え、本に親しむことができる。時間がかかるだろうが、良い取組だと思う。 ○学校から子ども達の変化の様子を伝えたらどうか。 ○親から子へ、本のプレゼントを行うと良い。おもちゃ等を購入した際に合わせて本（古本、簡単な本でも可）も購入すると良い。 ○公民館にも本がある。 ○絵を見ながら、バラバラとめくり読みをするだけでもいいのではないか。 ○巡回図書を楽しみにしている。図書室で友だちの借りた本を待っている様子もうかがえる。 ○芦田愛菜さんの読書量はすごい。学力も。 ○親は勤めているから様子がわからない、と言われるが、家で大人は本を読まない。本を読むという雰囲気を家庭で作る必要がある。リビング等に本が置いてあり、何気なく本を手にすることができるようにしておくが良い。親の目が届く場所に子どもがいると、親も子ども安心することができる。その場所は子ども部屋ではない。
				細呂木タイム等で国語や算数の基礎的な学力の定着を図っている。	教師	取組指標	90	100			
				細呂木タイム等で、国語や算数の学習に頑張っており取り組んでいる。	児童	成果指標	80	97			
				学校が児童に対して実施している国語や算数の基礎学習の取り組みに満足している。	保護者	満足度指標	80	96			
	②	話す・聞く力の育成	児童が自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりする活動に取り組む。	児童が自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりする活動に取り組んでいる。	教師	取組指標	90	100	自分の考えや思いを自分の言葉でのびのびと表現できている。個人差もあるが、それぞれ個々に向上が見られる。	伝える場や受け止める場を今後でも設定し、継続して帰りの会や行事の感想発表等を設定して取り組み、さらなる向上を目指す。	
				自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりすることができる。	児童	成果指標	80	93			
	③	主体的・対話的学び	主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行う。	主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行っている。	教師	取組指標	90	100	対話的な授業に継続して取り組んでいる中、さらに主体的に取り組む授業をつくっていく必要がある。また、自主学習については、年度初めに手引きを配付し、指導を行ったが、効果がまだ見られない。	年度初めに自主学習の手引きを配付し、具体的な方法や内容を指導したが、定着に結びついていないので、継続して指導していく。また、タブレット端末の持ち帰りを進め、eライブラリによる自主学習に楽しく意欲的に取り組めるようにする。	
				自分の考えと比べながら友だちの考えを聞いて、自分の考えを深めることができる。	児童	成果指標	80	93			
				子どもは、自主的に家庭学習に取り組んでいる。	保護者	満足度指標	80	68			
	④	読書習慣の定着	図書館との連携、親子読書やおうち読書、読書貯金ノートの活動を推進させ、読書習慣の定着を図る。	親子読書やおうち読書等、読書習慣の定着につながるような手立てを取っている。	教師	取組指標	90	100	児童には具体的な数値目標を掲げ、ほとんどの児童が読書に取り組んでいるという達成感を味わえた。保護者の判断基準には個人差があるため、数値が低かったことが考えられる。	保護者の基準を数値化して明確にする。保護者と児童で目標点を話し合い、家庭での読書習慣の定着を目指す。	
				平日10分、休日30分以上、本を読むことができる。	児童	成果指標	80	88			
				子どもは、平日10分、休日30分の読書の習慣が身につけてきている。	保護者	満足度指標	80	47			
	⑤	ICTの活用	ICTを活用した授業に取り組む。	授業力の向上と授業改善のために、効果的にICTを活用している。	教師	取組指標	90	100	ICTやタブレットを利用した授業が少しずつ定着してきているので、今後も積極的に活用していく。	今後も積極的にICTやタブレットを活用し、デジタルドリルを隙間時間に活用していく。	
				ICTを使った授業で、学習内容がよくわかった。	児童	成果指標	85	100			

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標指標	目標指数	今期指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価				
豊かな心	⑥	対人関係能力の育成	挨拶運動で個々の振り返りと評価を行う。 ソーシャルスキルトレーニングを学活や道徳の時間に取り入れ、学級内でのよりよい人間関係づくりに生かす。	気持ちの良いあいさつ、正しい言葉づかいや相手のことを思いやる言葉づかいができる子を育てるための指導をしている。	教師	取組指標	90	83	明るいあいさつができ、学校が楽しいと感じている児童が多いと分かる。ソーシャルスキルトレーニングの実施により、よりよい人間関係作りができているようだが、教員が明るい挨拶や正しい言葉遣いの指導が徹底できなかったということもわかる。また、友達に嫌がることをしてしまったと自分でふり返っている児童もわずかだがいる。	引き続き、ソーシャルスキルトレーニングを今後も実施し、さらによりよい人間関係を継続できるようにしていく。明るい挨拶や、場に応じた正しい言葉遣いの指導も適宜指導していきたい。 「学校が楽しい」と感じられなくなった児童には、毎月の月目標の振り返りでその都度話を聞いたり、教育相談週間によく話を聞いたり声掛けをしたりして、児童の気持ちをくみとり、改善を図りたい。また、児童クラブの先生とも連携を密にし、児童の様子をしっかりと把握していく。	○あいさつに関する評価が高く出ているが、集団登校時、すれ違う人へのあいさつができていない。地域の人へのあいさつがきちんとできているのが心配になる。				
				学校・地域・家庭で、明るいあいさつ、正しい優しい言葉づかいができています。	児童	成果指標	80	94							
				子どもは、明るいあいさつや正しい言葉づかい、優しい言葉づかいができています。	保護者	満足度指標	80	91							
				ソーシャルスキルトレーニング等を実施し、子ども同士のよりよい関係づくりに努めている。	教師	取組指標	90	100							
				学校が楽しい。	児童	成果指標	80	92							
				子どもは、学校へ通うのが楽しいと感じている。	保護者	満足度指標	80	99							
				道徳の授業や学校生活を通して、いじめや差別を許さない指導をしている。	教師	取組指標	90	100							
				相手の気持ちを考え、相手が嫌がることをしないようにする	児童	成果指標	90	89							
	学校は、子ども一人一人を大切にしている。	保護者	満足度指標	90	97										
	⑦	社会性	縦割り班活動、体験活動等を通して、人権意識、思いやり、認め合う心等を育む。	学活や道徳の時間、縦割り班活動、体験活動等を通して、自主的に活動し、協力し合うことやお互いを思いやる心を育てるための学習を心掛けている。	教師	取組指標	90	100	縦割り遠足や球技大会、運動会では、下級生にやさしく接する児童らが多く見られ、みんなで楽しく活動する様子が多く見られた。地域学習の機会も多くなり、地域の人たちとの交流も増えてきた。	今後も、縦割り活動・地域活動に力を入れ、子ども達同士で協力する気持ちや思いやりの心、ふるさとを愛する心を育てていきたい。					
				縦割り班活動では、小さい子に優しくできる等、人を思いやる気持ちを大切にしている。	児童	成果指標	80	99							
				学校での縦割り班活動、体験活動等は、子どもの協力する心や思いやりの心を育てるのに役立っている。	保護者	満足度指標	80	99							
				⑧	チャレンジ精神の育成	目的意識をもって、あきらめずにチャレンジする心を育む。	目標設定、振り返りをさせ、達成感を味わえる活動を行っている。	教師			取組指標	90	100	行事ごとに自分の目標を決め、お家の方からの言葉ももらい、子どもたちの励みになっているようだ。	今後も、行事ごとに目標を決め、それに向かっていくチャレンジ精神をさらに育んでいきたい。
							目標をもって、いろいろな活動に取り組んでいる。	児童			成果指標	80	93		
							子どもは、目標をもって活動している。	保護者			満足度指標	80	93		

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標指標	目標指数	今期指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
健やかな心と体	⑨	基礎体力の向上	体育の授業や細呂木タイム(週2回、マラソン、ドッジボール、キックベースボール、縄跳び等)において体づくり運動の強化及び基礎体力の向上を図る。	体育の授業や細呂木タイムで、めあてをもって取り組ませ、体力向上を図っている。	教師	取組指標	90	100	体力向上の取組、学年通信やHPでの連絡、振り返り用紙(めあてを立て、家庭からの励ましの言葉をもらう)などの取組により、効果が出ている。	引き続き、めあてをもたせたり、マラソンカードを書かせたりして、体力向上について、意識させる。	
				体育の授業や細呂木タイムの体づくりにより、めあてをもって取り組んだ。	児童	成果指標	90	100			
				昨年または年度初めのころと比べ、(体育の授業や細呂木タイムでマラソン、ドッジボール、キックベース、縄跳び等を行い)子どもの体力は向上した。	保護者	満足度指標	80	91			
	⑩	心身ともに健康な体の育成	「いじめ防止基本方針」に基づき、「心のアンケート」や「教育相談週間」を活かして子どもの心を把握し早期対応を行うとともに、月1回のアンテナ会議及びその後の対策会議の実施で問題の早期解決を図る。	心のアンケートや教育相談週間を生かして、問題行動の未然防止と早期発見・早期対応・事案対処に努めている。	教師	取組指標	100	100	学校では、いじめ未然防止や早期発見等に努めており、悩み事をすぐに教師や家族に相談できるように配慮している。また、年3回のアンケートや教育相談週間の実施により、問題の早期発見に努めている。児童が人に相談し悩みを解決することが厳しくなっていることが課題である。	今後も、常にいじめ対策チームを組織運営し、全体で児童の状況把握に努め、チームで対応する。日頃から学校、学級で話しやすい雰囲気づくりに努める。教師の目に見えないところで起きていることや悩みを打ち明けられない児童について情報収集し、早期発見・解決できるようにする。スクールカウンセラーとつなげて、全員面談を行うなど、相談できる環境を整えていく。	
				学校で嫌なことや困ったことがある時は、先生や友だち、家族に相談し、悩みや問題を解決することができる。	児童	成果指標	95	90			
				我が子に関して、学校と連絡(家庭訪問・連絡帳の活用含む)を取り合い、子どもを安心して送り出すことができる。	保護者	満足度指標	95	95			
	⑪	生活習慣(食育を含む)	日常的な健康習慣づくりを継続する(給食の時間、栄養士訪問、清潔チェック等)。	日常的な健康習慣づくりの指導をしている。	教師	取組指標	90	100	日常的な健康習慣は、ほぼ身につけていると思われるが、食のマナーについては、家庭と連携して指導していくことが課題となっている。	日常的な健康習慣づくりの指導を、家庭と連携しながら今後も継続していく。	
				朝の清潔検査・歯みがき・食のマナーを守ることができた。	児童	成果指標	80	96			
				子どもには、学校での日常的な健康習慣づくり(清潔チェック・歯みがき・食のマナー等)の指導が役立っている。	保護者	満足度指標	80	86			
	⑫	情報モラル	家庭と連携し、健全なネット利用(情報モラル含む)についてルールや習慣づくり、指導する。	家庭と連携し、健全なネット利用(情報モラル含む)についてルールづくり、習慣づくりの指導をしている。	教師	取組指標	90	100	学校、家庭でのルール作りについては定着しつつあるが、守ることができていない児童もいる。	タブレットの持ち帰りに合わせて、ネット利用やテレビ、ゲームの使い方や使用時間などのルールについて、その都度確認していく。	
				ネット利用やテレビ、ゲームの時間等、約束したことを守ることができた。	児童	成果指標	80	86			
				家庭では、学校と連携して健全なネット利用(情報モラル含む)についてのルールづくりや習慣づくりが、できている。	保護者	満足度指標	80	93			

○マラソン大会で、子ども園の園児や職員が応援に行くのを楽しみにしている。  
○昨今のニュースで報道されている、不登校、ヤングケアラー等の問題は細呂木小学校では大丈夫なのか。

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標 指標	目標 指数	今期 指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
開 か れ た 学 校	⑬	ふるさと教育の充実	地域にある文化財や地域行事等を活用したり、外部関係機関やこども園等と連携しながら、ふるさと教育を充実させる。	地域にある文化財や地域行事等を活用したり、地域と連携しながら、ふるさと教育を行っている。	教師	取組 指標	90	100	取組は行っているが、子どもたちの自主的、主体的な学びという面では、十分ではない部分がある。また、コロナ禍の中、地域の行事も縮小している点も考慮しなくてはならない。	体験活動だけではなく、地域のよさに気付くような事前・事後学習をしっかりと行う。	○ホームページの更新について、学年活動の様子をホームページにアップすることにしたことは、大変良い。 ○好きな時に見ることができるし、タイムリーな記事、写真を見ることができる。写真の量も、紙のお便りの時より多くなるのが良い。 ○学校に在籍する保護者だけではなく、他地域に住んでいる祖父母等も小学校の様子を知りたいと思っている。 ○公民館も150周年に向けて協力していきたい。
				地域の学習に参加して、地域に興味があわいた。	児童	成果 指標	80	96			
				子どもは、地域の学習に進んで参加している。	保護者	満足度 指標	80	93			
	⑭	積極的な情報発信	学校からの各種お便りやホームページ等で、学校や児童の様子の情報発信を行う。	学校からの各種お便りやホームページ等で、学校や児童の様子の情報発信を行っている。	教師	取組 指標	90	100	学年通信や学校だより、ホームページでの学校行事の様子の紹介等、保護者への情報発信を積極的に行った。特に、学年活動の様子をホームページでタイムリーに紹介することができた。保護者の満足度も高かった。	今後も情報発信を積極的に行い、家庭との連携を充実していく。学校の様子、各学年の様子がより伝わるように、ホームページを充実していく。	
				学校からの各種お便りやホームページ等で、学校や子どもたちの様子がわかる。	保護者	満足度 指標	80	93			
				日常生活の中にひそむ現在および将来に直面する安全の課題に対して、自分の身を守るように、安全教育を行っている。	教師	取組 指標	90	100			
⑮	安心安全な学校作り	日常生活の中にひそむ現在および将来に直面する安全の課題に対して、自分の身を守るように、安全教育を行う。	日常生活の中にひそむ現在および将来に直面する安全の課題に対して、自分の身を守るように、安全教育を行っている。	教師	取組 指標	90	100	避難訓練、交通安全教室等の実施により、災害安全、交通安全の意識を高めることができた。また、日常の授業や生活の中で、健康で安全に生活をするように意識付けを行った。	今後も、安全に生活ができるように、学校教育全般を通して指導していく。		
			学校は、「生活安全、交通安全、災害安全」に対する安全教育を行っている。	保護者	満足度 指標	80	93				